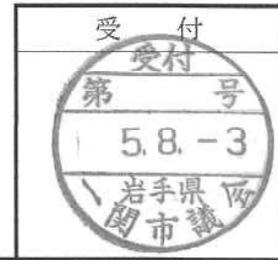


調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 勝浦伸行様



報告年月日	令和5年8月3日
実施日(期間)	令和5年7月19日～21日
実施場所 (行先等)	7月19日：新潟県長岡市 中越防災安全推進機構 7月20日：群馬県高崎市役所 7月21日：山形県高島町役場
事業区分 (いずれかに○)	研修 調査研究 要望・陳情活動 会議
事業内容	以下の取組について、事業担当者より説明を受け、質疑応答を行った。 新潟県長岡市：にいがたイナカレッジ 群馬県高崎市：高崎ブランドシティプロモーション 山形県高島町：有機農業推進計画
報告者	(会派名)輝郷会 (代表者) 小野寺 道雄
参加者	議員 小野寺道雄 議員 千葉 幸男 議員 千葉 信吉 議員 猪股 晃
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙
主要 資料名	別紙レジメ

別紙

1. 目的

議員資質の向上と、今後の市政に対する提言等に役立たせるため。

2. 概要

長岡市：移住定住、地域づくり活動に向けた、公益社団法人の取組を学ぶ

○にいがたイナカレッジ

・中越大震災復興基金を財源として、過疎化の流れが加速した農山村地域での、都市部の若者の受け入れプログラムを行う取組を展開している。

多くの移住者の創出、交流人口の拡大につながっており、また、それらの方々が、地域づくりにも大いに貢献している。

高崎市：市の地域資源を効果的に発信することで、知名度、ブランド力向上を図る取組を学ぶ

○高崎ブランドシティプロモーション

・地域資源としての食や農の情報発信等を、プロモーション事業として業務委託し、首都圏向きのテレビ配信やイベント開催等を通じて行い、知名度アップ、農産物のブランド力強化と農産物の生産振興につなげている。

高島町：東北では先進の、有機農業が盛んな町であり、行政としてのその支援体制の取組を学ぶ

○有機農業推進計画

・農家が先導してきた有機農業の振興に向け、行政としてもテコ入れすべく、有機農業推進協議会を設立し、主に、水稻について、その生産振興を図るべく、学校給食での活用等を行っている。

3. 参考とすべき事項・所感

○長岡市

長期的な視点に立った定住促進や、地域づくりの担い手確保・育成の取組について以下のことが参考となった。

・各種プログラムの取組による関係人口の構築から移住定住へ

ーおてつだい型プログラム(半日~数日型プログラム)

ー地域づくりプログラム(週末通い型~1か月間のプログラム)

よそ者が地域の人達と協力して、地域活性化などに向けた取組を行う

ー学び(研修)型プログラム(1年間のプログラム)

地域に興味がある若者を対象に、地域の担い手が欲しい場面や、地域が

やりたい想いに基づいて、よそ者が一緒になって活動する。

- ・イナカレッジのプログラムによる関係人口を増やすための場所づくり
- ・課題解決をめざさない(短期プログラム)、活動テーマ(ゴール)はあるものの、地域の人たちと関わることを重視。
 - －教える×学の関係性(長期プログラム)、地域の方々が先生との意識。
 - －地域ぐるみの受け入れ体制、1対大勢の受け入れ体制により、実体験、地域住民との触れ合いから、参加者のみならず、受け入れ側の住民の満足度にもつながっている。
- ・定住ありきのプログラムでなく、参加者、住民が成長し合うプログラム。
- ・参加者と住民の間を取り持つ、コーディネーターの存在が重要。

○高崎市

農業分野での高崎ブランドの構築に向けた取組として、農と食にスポットを当てて、首都圏向けにテレビ番組作や、海外への農産物等の輸出を行っており、地域農業を元気にする取組が参考となった。

- －博報堂への事業委託など、結構なお金をかけた(令和5当初予算:6千万円)取組であり、ダイレクトな農産物の生産振興よりも、高崎の良いところをクローズアップするイメージ戦略をとっており、予算的背景を除きで、当市の地産外消の取組と比して考えさせられるものがあった。

○高島町

東北では、有機農産物生産の先進地であり、国が進めるみどりの食料システム戦略に連動した、有機農業産地づくり推進事業に取り組み、学校給食への有機農産物提供などにより、生産拡大を目指しており、今後の当市の有機農業の推進のあり様に参考となった。

- －有機農産物の販売は、専門業者の仲介やネット販売とのことであり、東北では先進地ではあるが、やはり、栽培の難しさもあり、生産が頭打ちになってきている状況下、国の方向性もあり、行政としても支援を強化しているとのこと。有機農産物は値段が高く、町内では売れていないとのことであり、今後の当市における有機農産物の生産振興を図る上で、同様の課題があるものと感じられた。

長岡市



高崎市



高島町



調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 勝浦 伸行 様



報告年月日	令和6年1月25日
実施日(期間)	令和6年1月18日(木)～19日(金)
実施場所 (行先等)	1月18日：茨城県阿見町役場 1月19日：茨城県つくば市高エネルギー加速器研究機構
事業区分 (いずれかに○)	(研 修) 調査研究 要望・陳情活動 会 議
事業内容	以下の取組について、事業担当者より説明を受け、理解を深めた。 阿見町：議会改革の取組 高エネルギー加速器研究機構：加速器研究の現状
報告者	(会派名) 輝郷会 (代表者) 小野寺 道雄
参加者	議 員 小野寺道雄 議 員 千葉 信吉 議 員 猪股 晃
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙
主要 資料名	別紙レジメ _____ _____ _____ _____

別紙

1. 目的

議員資質の向上と、今後の市政に対する提言等に役立たせるため。

2. 概要

阿見町議会：議会改革の取組として、以下の事項を学ぶ

- ・議会改革等調査研究特別委員会
- ・議会改革アドバイザー制度
- ・議会モニター制度
- ・予算・決算審査と事務事業調査
- ・議会報告会
- ・提言

上記の取組が一連の政策形成サイクルとして機能している。

高エネルギー加速器研究機構：加速器研究の現状を学ぶ

- ・機構の役割と成果、今後の取組
- ・施設見学－超伝導リニアック試験施設
- ・空洞製造技術開発施設
- ・Belle II 測定実験施設

3. 参考とすべき事項・所感

○阿見町議会

課題の絞り込みから、政策提言までに至るプロセスについて以下のことが参考となった。

- ・政務活動費はなく、議員全員の研修の開催などにより、議員資質の向上や議会改革の取組に対して、共通認識も持ったものとなっている。
- ・議会報告会は、議会活動を報告する機会であるとともに、提言をまとめるための町民の意見や要望を聴取するための報告会の位置付けとなっている。
- ・政策提言というよりは、個別の事務事業に対する提言のスタイルとなっており、特別委員会や常任委員会での課題の絞り込みがやりやすい仕組みとなっている。
- ・他先進自治体の議会事務局職員を議会改革アドバイザーに招へいして、その方のアドバイスをもとに、様々な議会改革の取組を実践している。

所感

政策形成プロセスとして、大きな議員の労力が投入されており、成果も出ているが、議員の活動量の負荷もかかっているものと感じた。

政策提言との位置付けで取り組んでいる当市の取組との比較において、今後の当市における政策提言までのプロセスの構築に参考となる研修であった。

○高エネルギー加速器研究機構
所感

宇宙の起源と物質構造の探求のため、日々、装置づくりと実験、そして理論の構築に励んでいる状況を学びましたが、研究者は一関での国際リニアコライダーの実現に向けて大きな期待を寄せており、研究者の努力に報いるためにも、国際的な研究施設の実現に結び付くことを願いたい。

阿見町議会



高エネルギー加速器研究機構



調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 勝浦伸行様



報告年月日	令和6年2月20日		
実施日(期間)	令和6年2月17日(土) 14:00~16:30		
実施場所 (行先等)	早稲田大学 国際会議場		
事業区分 (いずれかに○)	<input checked="" type="radio"/> 研	<input type="radio"/> 修	調査研究 要望・陳情活動 会議
事業内容	講演聴講 内容：講演－演題「その質問何のため？議員の質問を再検証」 議員力と議会力を磨くLM学習会 講師 大正大学公共政策学科 教授 江藤敏昭氏		
報告者	(会派名) 輝郷会	(代表者)	小野寺 道雄
参加者	議員 猪股 晃		
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙		
主要 資料名	別紙レジメ		

別紙

1. 目的

議員資質の向上と、政策提言など、議会の政策サイクルの構築に役立たせるため。

2. 概要

主催：ローカルマニフェスト推進連盟

共催：早稲田大学マニフェスト研究会

講演聴講：演題「その質問何のため？議員の質問を再検証」

議員力と議会力を磨くLM学習会

講師 大正大学公共政策学科 教授 江藤敏昭 氏

質疑：講演会終了後、質疑を1時間程実施

当方からは、より効果的な政策反映の仕組みづくりについて質問し、講師から、議員間討議により当局に政策提言すること。また、一般質問は、政策提言に付随した質問内容を含めて行うこと。あるいは、政策提言につなげるための市民との対話など、議員の取組や議会の活動が、政策サイクルとして回っていく仕組みづくりが必要とのアドバイスを受けた。

3. 参考とすべき事項・所感

- ・質問と質疑の違いを再確認した。

質問—執行機関に対して、疑問点を質し、所信の表明を本会議で求めるもの。（一般質問や代表質問）

質疑—議案及び修正議案について、本会議及び委員会で問うもの。

質疑は、自己の意見を述べることはできないが、議案提案後の議員間討議による審議で各議員が意見を述べ、論点を明確にすれば良いとのこと。

- ・議案審議にあたっては、言いたいことを当局に言うのではなく、議員間討議で詰めて、場合によっては、修正提案する流れが本筋。
- ・議案に対する討論は最終的な議決の際には行うが、その前の議員間討議にしっかり時間をかけて、論点を整理する必要がある。
- ・当局の提案がもっとも良い案とは断言できないのだから、最適を求め、議案に対しての住民との意見交換、参考人招致、議員間討議をしっかり行い、議決あるいは、修正提案の流れを作ることが重要。
- ・一般質問は大切だが、議案審議も重要である。
- ・一般質問は、議会からの政策サイクルに連動させていく必要があり、以下の様な全国事例があり、一般質問の手法は豊富化してきている。
 - 重複質問調整制度（茅ヶ崎市議会）
 - 新人議員への一般質問の仕方研修（取手市議会）
 - 一定例会前に、一般質問を全員で確認（別海町議会）
 - 議会だより等での追跡調査（昭和町議会）
 - 政策提言の進捗状況を確認する質問（いなべ市議会） 等々

所感

オンライン聴講とは異なり、会場内での質疑が活発であり、様々な議会の取組や講師の助言が聴取でき、緊張感と臨場感がある研修であった。

また、セミナー終了後は、有志による懇親会も催され、さらに多くの話を聞くことができ、大いに刺激を受けた研修であった。

